

170. 善悪の判断がつく子供にするには

【問い】 今春、小学校に入学する子をもつ両親です。善悪の判断のつく子に育てるには、どうしたらよいでしょう。

【答え】 入学期などの機会にご両親そろって、子どものしつけに関心を寄せられることは時宜を得たことです。

小学校入学のころの子どもは、一般に、まだ、幼児期の自己中心的な考え方がかなり残っています。学校での規則的な生活や友人との遊びなどを通して、周囲が自分の思い通りにならないことを知ると、心の動揺から、今までみられなかったさまざまな反応を示す子もいます。自己中心の考え方からぬけだし、他人の立場を認めたり、理解したり、人格を尊重する傾向は、よほど学校の友達に慣れてから現れるのが普通です。まして善悪を判断することは、かなりむずかしいことだと言えます。

まず、おとなが善悪の区別をはっきりしてあげることが大切です。この時期の子どもは、おとなに対して絶対的な尊敬と信頼をもっていることを、おさえておくべきでしょう。おとなから与えられたきまりは、変えることのできないものとして守ろうとします。また、おとなから認めてほしいということから、おとなの与えるものに忠実に従おうと努力します。なぜ、規則を守らなければならないかというような、すじ道を立てての考え方はむずかしいことです。

したがって、まず第1に、両親は一貫した賞罰や是認、否認を行うことによって、望ましい行動の仕方を教えてやるのが基本となります。第2に両親の言動が一致していることが必要です。第3に子どもとの対話に、真実を述べる態度が大切です。思わぬ「だじゃれ」などが、子どもに、あやまった判断を与えるものになることもあります。いずれにしろ、親子の間に温かい親密感があり、意思の疎通のあることが前提となるでしょう。